



令和2年度学校教育自己診断の結果と分析

【1 学習指導】

生徒向けの質問項目のうち「本校の先生は教え方に様々な工夫をしていると思いますか」が83.6%（-0.3p）、「本校の授業はあなたの期待に応えることができていると思いますか」は78.7%（+1.2p）と、昨年と比べてほぼ横ばいであった。また、「本校のカリキュラムはあなたの興味、関心、適性、進路に応じた選択ができるものだと思いますか」は81.2（+0.5p）で過去5年で最高の数値となった。（※下記一覧表）。

※質問項目に「1 とてもそう思う」「2 どちらかといえばそう思う」の合計比率（単位：%）

肯定的回答の比率	H27	H28	H29	H30	R1	R2
授業の工夫	70.5	73.5	78.9	78.1	83.9	83.6
期待に応える授業	62.2	62.2	73.1	65.1	77.5	78.7
カリキュラム	67.7	67.7	76.7	72.3	77.7	81.2

【2 進路指導】

進路指導に関する質問で、「あなたは進路実現に向けて、真面目に学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は79.5%（+4.1p）であった。学年別では1年生74.2%、2年生、3年生91.9%で、2、3年生の経年変化を見ると、2年生は70.3%→73.8%、3年生は63.3%→68.7%→91.9%と推移している。3年生では9割の生徒が進路実現に向けて熱心に学習に取り組んでいると自覚していることがわかった。

【3 高校生活】

（1）高校生活の充実度及び教育相談体制

「あなたは、本校でいきいきと充実した生活ができていると思いますか」に対して84.9%（+1.6p）の生徒が肯定的回答をした。「あなたは本校で、友好的な人間関係を築けていると思いますか」に対しては95.7%（+2.7p）が肯定的な回答で、そのうち59.4%が「強く思う」としている。例年85%～90%で高位安定しているが、今年度は臨時休業の影響があるかと懸念していたが、数値に現れなかった。

「担任の先生以外で保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいると思いますか」の問いには65.7%（-2.4p）の肯定的回答であった。担任に対して何でも相談できる関係が築けているとも考えられるが、教員全体で生徒に関わるような教育相談体制となるよう広報活動等に努める必要がある。（H29.67.2%→H30.73.4%→R1.68.1%）

（2）学校行事

当初の予定で4、5、6月に入っていたクラスマッチ、遠足体育大会、文化行事は中止した。9月の文化祭については、例年より夏休みが短くなり準備期間が短縮されたが、予定どおり、土曜日と日曜日の2日間開催し、同居家族のみ入場を認めた。実行委員を中心に生徒

主体の企画・運営を行い、感染症予防のため、開会式を分散したりクラス企画に規制を加えたが、3年生を中心に盛り上がりを見せ、「本校の文化祭、遠足や修学旅行などの学校行事は楽しめるように工夫されていると思いますか」は84.5%（+0.4）が肯定的な回答であった。1、2年生のみ秋に遠足を実施。3年生はクラスマッチをする予定であったが雨天のため映画鑑賞となった。

（3）部活動

生徒向けの「あなたは、部活動に積極的に取り組んでいると思いますか」の質問に対して、74.2%（+4.8p）が肯定的な回答であった。運動系・文化系合わせて約80%の加入率から考えるとやや物足りないが、対外試合や発表会を通じて多くの体験を積むことができること、高校時代の部活動でしか経験できない先輩、後輩、顧問の教員、外部指導者、他校の生徒及び教員などとの広い範囲の人間関係を学ぶことは、社会人になった時に大きな財産になるので、引き続き、加入率を上げることと生徒の積極的な取組みが促進するよう注力する。教員向けの「本校では生徒が充実感を得られるように部活動を運営していると思いますか」は94.5%（+4.0p）と高かった。

（4）国際交流

感染症の影響で、2つの姉妹校（豪州のCarey校と韓国の景福高校）との親善交流ができなかった1年であったが、オンライン交流を実現しようと国際交流委員会を中心に準備をし、10月中旬に本校生徒12名と景福高校の生徒13名でオンライン会議システムを使った交流が行われた。また、今後、大阪観光局から依頼のあった台湾の高校とのオンライン交流は次年度に持ち越されたが、今後も国際交流に興味をもっている生徒のニーズに答えられるような企画をするとともに、全校生徒へ広げる工夫をしていきたい。「本校が行っている語学研修等の国際交流事業は魅力があると思いますか」は70.2%（-3.2p）であった。

（5）地域ボランティア

地域連携の象徴として取組んでいる4月中旬の「狭山池まつり」が早々に中止となったことは残念であった。身体的距離をとりながらできる交流に限られたが、総合（家庭）の授業での手話講座と保育所訪問は実施することができた。狭山池の清掃活動（クリーンアクション）には17年間続けて積極的に協力しており、12月の特別企画には部活動の生徒を中心に200人以上が参加した。「あなたは本校の地域清掃や地域連携活動でボランティア精神が高まったと思いますか」の質問に対する肯定的回答は62.4%（-3.3p）に留まった。大阪狭山市唯一の高等学校であり、今後とも生徒の自主的な地域連携を積極的に支援したい。「あなたは、本校の地域清掃や地域連携活動でボランティア意識が高まったと思いますか」は62.4%（-3.2p）であった。